

<12>

共生未来へ

住まいのヒント

の中で、メスの胎児はオスの胎児からの男性ホルモンの影響を受けて、成牛になっても子牛を産まないからということでした。

マウス(ハツカネズミ)でも同様な報告のあることは知られています。マウスは一度に通常十二匹の子供を産みますが、子宮の中でオスに挟まれて育ったメスは、子供は産むものの、オスの性質の一つである「攻撃性」を持つメスになるといわれます。これは胎児の「住

乳牛はメス牛です。酪農家の方はメス牛が生まれれば大喜びです。しかしメスとオスの双子が生まれた場合は、メス牛はほとんど価値がないということを知りました。それは母牛の子宮

人間の乳幼児はおもちゃをかんだり、なめたり



早春の妙高。きれいな空気ときれいな水は、健康維持の源

しますが、塩化ビニール製のおもちゃからは、生殖毒性や発がん性が指摘されている二種類の化学物質(フタル酸ジエチルヘキシルとフタル酸ジイソノニル)が検出されています。そのため本年度中に、これらを原料に使わないように、厚生労働省は、塩化ビニール化学物質は、住宅の建築資材を始め、殺虫剤や芳香剤、化粧品、たばこなど、たくさんあります。その他身体に害を及ぼすものには、食品に添加される化学物質があります。それらの化学物質で水に溶けるもの多くは腎臓を経過して尿中に排泄されます。

環境化学物質

微量でも健康に影響

一方、油に溶けるものは、私たちの体の脂肪成分に取り込まれて蓄積されます。現在を生きるすべての人は、量の違いがあってもさまざまな化学物質を蓄積していると考えられています。

二年前に自宅を建てるに、ホルムアルデヒドの放散量をもっとも少ない建材を選びました。その結果、建築後の測定値は世界保健機関(WHO)とわが国の濃度指標値を下回りましたが、しかしかなりの量でした。

省で法的な規制が検討されています。

私たちが取り巻く微量環境化学物質が健康に影響する例も少なくありません。住宅の建築資材などから放散する化学物質によって発症するシックハウス症候群も同じ例になります。

(杉田収・県立看護短大教授(上越市))